

幸せの青い鳥はどこに～あなたの欲しかったものは何ですか？

第1回：はじめに

～「どうして、青い鳥が欲しいの?」、とチルチルが聞きました。

「幸せになるためだよ。青い鳥を見つければ、必ず幸せになれるんだ。」、と魔法使いが答えました。～

このページでは、2年前の10月から「自然と人間の共生～21世紀への道」を6回シリーズで、1年前からは「ODAとNGOの連携～より効果的な国際協力を目指して」というシリーズを連載した。2つのシリーズは一見無関係のように見えるが、実は「我々はいったい何をめざして生きているのか」あるいは「持続可能な開発とは何か」という点でつながっているテーマである。今回のシリーズ「幸せの青い鳥はどこに」は、まさに今、我々がめざしているものを探る「旅」になる、そんな予感を持ってこの新しいシリーズを始めようとしている。これら三シリーズはたまたま「三部作」になろうとしているが、それはどこかでそうなる「必然性」があったのかもしれない・・・

さて、このシリーズの中では、「豊かさ」とか「夢」が重要なキーワードになるだろう。さらに本シリーズでは、日本や日本人の現在と将来、こどもの未来、教育、ということも重要なテーマとなるだろう。我々、国際耕種のメンバーは国際協力の仕事に携わっているので、日本と途上国両方を体験する機会を与えられているが、現在の日本を見ているといろいろなことを考えさせられる。たとえば、経済的にあるいは物質的に豊かになることは、それと引き換えに「心の豊かさ」を失うことなのか?、それが「幸せになること」の実態なのか? (そしてそれは途上国でも同じなのか?)。だとすれば、我々は何のために「豊かさ」を求めているのか?、我々はわざわざ不幸になるためにこれまで努力してきたのか? 等々・・・

ところで、「豊かさ」とは何か? 逆に「貧しさ」とは何だろうか? 「貧しさ」を表す尺度としてドナー側は「貧困指標」という指数を使うことがある。それは、家計収入、カロリー消費量、病院や学校の数、農村電化率、トイレの普及率、識字率、等々であるが、実は「貧しさ」は物質的な尺度では測れないのではないかと、我々がイキイキと豊かに生きていくためには「夢」を持つことが必要である。始めから夢や希望を持たない人はいないだろう。しかし、その夢を持ち続けることができなくなった時、あるいは夢を現実にするステップが見つけれない時、人は絶望のフチに立たされるのではないかと。そういう意味から、「貧しさ」とは生きることの夢や希望を持つことが難しい状態である、と言える。

そして、そんな時に必要なのは、自分(庶民)に無関係な、遠大で抽象的な「将来の計画」ではなく、とりあえず到達可能な目標と、それを実現するための「自助努力と支援」であろう。まず、具体的な目標が持てて、その目標に向かって自ら努力してよりよく生きようとする行動が始められること、そして、そんなふうにながらんでいる人たちに対する、正しい、適確な支援がまわりからされる時に、人は生きる希望の光を見出すことができるのではないかと? また、「支援」が永遠に続くのではなく、いずれは将来に向けて「自立」すること、を念頭においた支援であるべきだろう。

さて、その「夢」とか「希望」の実態は何なのか? このシリーズは、そんな夢探しの旅へのいざないである・・・

～「この国には何でもある。だが希望だけがない。」

(希望の国のエクソダス・村上龍) ～

